



自由民主党福岡市議団

稲員としお 市政報告

2018年3月号 Vol.3



- ・平成28年度第2委員会副委員長(教育・子育て支援・福祉)
- ・平成29年度文化、スポーツ推進協議会副会長(文化とスポーツの振興)
- ・平成29年度都市問題等調査特別委員会委員
- ・平成29年度議会運営委員会委員
- ・社会教育委員会委員 ・子供子育て審議会委員 ・病院事業運営審議会委員
- ・中央保健所運営協議会委員 ・中央区剣道連盟理事 ・福岡市空手道連盟顧問
- ・ニューはつらつスポーツの会顧問

地域活動について

これまで地域の方々が住民の為に一生懸命に地域活動に取り組まれておられる後姿を見ながら私もいち地域の住民としても勉強させて頂いております。私も地域活動として下記の事柄に取り組んでいます。

◎消防団活動(中央消防団にて)

大規模から小さな災害時に力を出せる様訓練をしております。又、伝統ある纏い隊にても先輩方に厳しくご指導を頂いております。



◎少年剣道の指導

武道そしてスポーツによる子供達の健全育成は非常に大切であると考えております。



◎地域活動

「福岡城おほりまつり」武者行列にも参加させて頂きました。



7年間、毎朝子ども達の登校時の見守りをしております。



◎ニューはつらつスポーツの会(ソフトボール・バレーボール)

年に2回中央区のソフトボールクラブとバレーボールクラブの皆様に参加を頂き大会を開催しております。



平成27年に市議会議員に初当選をさせて頂き、今年の5月で4年目を迎えます。教育・子育て支援・福祉の分野をメインに活動を続けて参りました。これからも、本当に困っている人、不安を抱えて生活をされている人、なかなか光が当たらない様な事にしっかりと目を向け、また、話を聞き、議員活動に取り組んで参る所存でございます。現場第一主義をモットーにこれからも勉強して参りますので、今後ともご指導賜ります様宜しくお願い申し上げます。



福岡市議会議員 稲員 総夫

UD FONT

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づき、より多くの人に見やすく読み間違えにくいデザインの文字を採用しています。

稲員としお事務所 〒810-0042 福岡市中央区赤坂3-1-24 TEL:092-714-1080 FAX:092-741-0161

地域・中央区 そして福岡市を皆様にとって誇れる街とすべく心血をそそぎます。

平成29年自由民主党福岡市議団を代表して以下の議会質問を致しました。

「健康都市福岡への取り組みについて」

6月議会定例会

東京で成人病患者が少ないのは、公共交通機関の充実により、最寄りの駅までや駅から目的地に向かうときなどに、歩くことが多いからだとも聞いています。これから迎える超高齢社会に向けて、社会保障制度を安定的で持続可能なものとして、次の世代またその次の世代に引き継いでいくためにも、市民の皆さんに健康をもっと意識してもらい、健康になる為の行動を積極的にとって頂き、さらには、いつまでも健康で充実した人生を過ごしていただきたいと思っております。また、本市では他都市と同様に、今後、税金や保険料等を支払っている、働く世代が増えないことにより、医療・介護制度が維持できなくなるため、このままでは、一人あたりの負担額が急増してしまうという問題を抱えています。適度な運動は健康づくりの基本であり、健康な方が増えれば、支える側の負担が軽減されます。そのためには、公共交通機関や自転車でも移動がしやすく、快適に楽しみながら歩ける街づくりが必要であり、市民一人ひとりが、日々の生活の中で健康を意識した行動を実践し、元気な高齢者が生きがいを持って活躍している。そんな街を創っていく必要があると訴えました。

臓器提供意思表示の啓発、臓器移植についての理解について

6月議会定例会

腎臓の移植をはじめ、臓器移植によって助かった多くの命があり、社会復帰につながった事例もあると聞いています。さらに、オリンピックへの出場を果たした方やプロサッカー選手として活躍した方もおられます。臓器移植の待機日数は短くても375日、長い場合には5317日という状況です。この方々がスムーズに臓器移植を受けられるようになるためにも、市民一人ひとりが真剣に向き合い、理解する必要があると思っております。臓器移植は一般的な医療行為の一つであるはずですが、他の医療と異なる点は、一人ひとりの生命観・倫理観・死生観、或いは国民性などが深く関わってくることだと思っております。現在、日本の臓器提供は、欧米諸国と比較すると圧倒的に少ない状況です。一方で、臓器提供を希望する人は増えてきていると聞いています。それでも臓器移植の数が増えてこないのは、日本にその意思を活かす仕組みが整っていないからではないかと思っております。善意をつなげる仕組みを整えつつ、子供から大人まで移植医療への正しい知識が拡がることで、善意で救われる命が増えていく為にも福岡市としてもこれまで以上に臓器移植の正しい知識等についての効果的な情報提供をする様求めております。

「少子化対策と不妊治療について」

12月議会定例会

現在、我が国は少子高齢社会を迎えるなか、支える側と支えられる側のバランスが崩れ、社会保障制度の持続可能性が懸念されております。支える側の少子化の傾向は、致し方ないですまされることではありません。今から本気で、子育て支援の充実にも力を入れながら、出生率を少しでも上げていく、また、子供を育てやすい環境づくりにも、力を入れていかなければならないと思っております。また、晩婚化、非婚化となってきた現代において子供達に、今後の人生設計の一助となるべく様々な事を知ってもらう機会の提供。そして少子化対策の一つとしても考えられる不妊治療の保険適用外である人工授精への本市単独助成金制度の創設と、1回の治療で約50万円かかる、保険適用外の特定不妊治療(3種類)において、回数・年齢制限を設けて国・市が1/2づつ負担して、初回30万円、2回目以降は15万円の助成金がありますが一担は50万程の治療費は自費での支払いになる事から、金銭的負担を伴う為、この支払い方法を病院へは助成金分を差し引いて支払い、病院から助成金分を市に申請できる様なシステムを作っていく事を強く求めました。

平成30年度より人工受精に対して一部助成が開始されます。



平成30年3月 予算・条例特別委員会にて

- ①福岡城・鴻臚館跡再整備とセントラルパーク構想について(住宅都市局)(経済観光文化局)
- ②すまいサポート福岡について(保健福祉局)
- ③消防団員の確保について(消防局) 質問を致します。